

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年5月11日～2015年5月17日】

主な動き

[当地報道をもとに作成]

平成27年5月28日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼「アブハジア共和国内相」が辞任(14日)

・ロルア「アブハジア共和国内相」が辞任。数日前に「内務省職員」と「国家警護局員」との間で起こった衝突が原因と見られる。アブハジアのメディアによれば衝突の際に重傷者が病院に緊急搬送された。

▼「アブハジア共和国大統領」がプーチン露大統領と会談(15日)

・ハジンバ「アブハジア共和国大統領」がソチにてプーチン露大統領と会談。2014年9月に署名された「協定」の実施などについて議論。ハジンバ「大統領」は会談で年金などに関する合意に署名したとして、「アブハジアとロシアの関係は非常にダイナミックに発展しつつある」と述べた。

2. 外政

▼米・ジョージア共同軍事訓練が開始される(11日)

・2週間の米・ジョージア共同軍事訓練「Noble Partner」がトビリシ近郊のヴァジアニ訓練場で始まった。NATO即応軍における米・ジョージア軍の共同運用能力の向上を目指とし、両国から約600名が参加。ブラッドリー歩兵戦闘車14台など、米欧州軍の提供した使用機材はブルガリアを経由してジョージアに運ばれた。

▼中国農業部長がジョージアを訪問(11日)

・韓長賦・中国農業部長がジョージアを訪問し、ガリバシヴィリ首相、ダリネア農業相と会談。ジョージアの農作物の輸出促進の重要性が強調された。「ガ」首相は、中国との貿易・経済関係の発展はジョージア政府にとって特別に重要であり、最近は二国間のダイナミックなパートナー関係に著しい進展が見られるとコメント。
・「ダ」農業相と韓長賦・中国農業部長が農業分野における協力のための共同行動計画に署名した。

▼大統領がブリュッセルを訪問(11日～12日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がブリュッセルを訪問。
11日、NATO本部を初めて訪問し、ストルテンベルグNATO事務局長と会談。欧州議会で開催された東方パートナーシップに関する会議に参加。翌12日、トゥスク欧州委員会委員長、ハーン欧州委員（近隣政策・拡大交渉担当）と会談。
・「ス」NATO事務局長との会談ではジョージアのNATO加盟の見通し、地域の安全保障、共同の国際ミッションなどについて議論。「マ」大統領はロシアによるジョージ

アの被占領地域との「協定」や占領・障害物設置の継続の問題を取り上げた。また、ジョージア軍の国際ミッションへの参加や国際的な安全保障への貢献が強調された。

・会談後、ストルテンベルグNATO事務局長は、実質的パッケージの実施は「順調に進んでいる」として、共同訓練・評価センターは今年中に設置されると発言。また、ジョージアはNATOに近づいているとして、「この道のりにおいて共に取り組みを継続することを望んでいる」

「NATOはジョージアの国防セクターの現代化に対する支援を約束している。これはジョージアがNATO加盟により近づくことを助けるものである」と述べた。

・トゥスク欧州委員会委員長との会談では、EU・ジョージアの査証自由化を完了するため一層の努力を行なうことで合意。会談後、トゥスク委員長は「リガの首脳会議は東方パートナーシップに対するEUの深い関与を再確認することになるだろう」と述べた。

▼NATO外相会合(13日～14日)

・ベルチャシヴィリ外相はトルコのアンタルヤで行なわれたNATO外相会合に参加。アフガニスタンでのResolute Supportミッションに関して行なわれた会合で演説し、世界平和に貢献し、制度改革における成功の経験をアフガニスタンと共有する用意があると述べた。

・NATO外相会合に並行して、「ベ」外相は英国、トルコ、ブルガリア、ルーマニア、リトアニア、ラトビア、エストニア、ウクライナ、モンテネグロ、オーストリア、イタリア、カナダ、チェコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ベルギーの外相およびヌーランド米国務次官補、キャンベルResolute Supportミッション司令官と会談。会談ではジョージアのNATO加盟、NATOの実質的パッケージの実施におけるパートナー諸国の支援、ワルシャワでのNATO首脳会議に向けた準備などについて議論された。

▼東方パートナーシップ諸国とVisegrad諸国の外相会合(15日)

・プラチスラヴァにて東方パートナーシップ6カ国とVisegradの4カ国の外相が会談。モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表、ハーン欧州委員（近隣政策・拡大交渉担当）およびスウェーデン、ルーマニア、ラトビアの外相も参加。会談後、リンケーヴィチ・ラトビア外相は「リガでの首脳会議でいかなる決定がなされるべきかについて率直に意見を交換した」とコメント。ライチャク・スロバキア外相と「リ」ラトビア外相は、東方パートナーシップはいかなる第三国に向けられたものでもないと強調。

・並行して、第25回GUAM外相会合が行なわれた。

▼ガリバシヴィリ首相とアブラハミヤン・アルメニア首相との会談(17日)

- ・「ア」アルメニア首相はジョージアを非公式に訪問し、バトumiにてガリバシヴィリ首相と会談。ジョージア・アルメニア両国の友好的かつ善隣的な関係について意見を交換し、経済協力の推進の展望について議論した。

3. 内 政

▼グリア地方知事の任命(11日)

- ・2014年12月にチハイゼ前知事が辞任して以降空席となっていたグリア地方知事にサルクヴァザ「SakRusEnergo」社CEOアドバイザーが任命された(同社はジョージア・ロシア間の高圧送電を実施するジョージア政府とロシア国営電力会社の合弁企業)。「サ」氏は2011年5月の反政府デモに参加し、その際警官に抵抗したとして投獄されたが、2013年初めに恩赦を受けて釈放された。

▼米国際民主研究所の世論調査(11日、13日)

- ・米国際民主研究所(NDI)の依頼によりコーカサスリース調査センター(CRRC)が2015年3月から4月にかけてジョージア国内の4,360名を対象に対面調査を実施。前回は2014年8月に行なわれた。

・国のも重要な問題(回答者は3つまで挙げができる)として挙げられたのは雇用(66%)、インフレ(43%)、貧困(39%)、領土一体性(27%)、年金(21%)。2009年に調査を開始して以降「領土一体性」が初めて上位3位までに入らなかった。

・ジョージアが良い方向に進んでいると答えたのは23%(前回40%)、悪い方向に進んでいると答えたのは37%(前回16%)。

・明日選挙が行なわれた場合に投票すると答えた回答者について、どの党に投票するかを聞いた結果、「分からぬ」27%、「ジョージアの夢」24%、「統一国民運動」16%、「自由民主主義者党」5%、「ジョージア愛国者連合」4%、「労働党」3%。

・主な政治家のなかで好感度が最も高いのはマルグヴェラシヴィリ大統領52%(前回48%)。次いでアラサニア前国防相51%(前回60%)、ウスパシヴィリ国会議長45%(前回51%)。その他、バクラゼ統一国民運動院内総務44%(前回48%)、ガリバシヴィリ首相40%(前回54%)、サーカシヴィリ前大統領30%(前回22%)。

・EUとの連合協定への署名について支持68%(前回69%)、不支持16%(前回8%)。NATO加盟の追求について支持65%(前回72%)、不支持20%(前回15%)。ユーラシア連合への加盟について支持31%、不支持41%。

・ロシアについて、「現実的な脅威である」47%(前回42%)、「脅威であるが誇張されている」36%(前回32%)、「ロシアは脅威ではない」12%(前回15%)。

▼コルザイア議員が共和党に移動(13日)

- ・ジョージアの夢・民主ジョージア党から共和党に移籍。

「コ」議員は移籍の理由として共和党のリベラルな姿勢の方が自身に近いためと述べた。これまでも共和党と投票行動を共にすることが多かった。

▼国防次官の任命(15日)

- ・ヒダシェリ国防相はエブラリゼ次官、ドリゼ次官、ロラゼ次官の3名の国防次官を任命。「エ」次官は元財務次官。

・ドリゼ次官(女性)は最近までカナダの大学で法律を教えていた。2004年から2006年まで「ヒ」国防相の後任として青年法律家協会代表を務めていた。

・ロラゼ次官はこれまで法務次官(2004年から2005年2月まで)、憲法裁判所副長官などを歴任。

4. 経 済

▼投資家評議会の設置(12日)

- ・EBRD年次総会に出席するためチャクラバルティEBRD総裁がジョージアを訪問。「チャ」EBRD総裁とガリバシヴィリ首相は、投資家の直面する具体的な問題への対応を目的とした投資家評議会の設置に関する覚書に署名。評議会はビジネスオンブズマン、政府代表者、ビジネス団体、国際的投資家ら15名から構成され、ジョージア首相が代表を務める。EBRDが評議会事務局の資金を提供する。「チャ」EBRD総裁は、「評議会は政府と民間セクターとの建設的な対話を促進する重要なプラットフォームとなる」と述べた。

▼EBRD年次総会(14日—15日)

- ・トビリシでEBRD年次総会とビジネスフォーラムが開催された。60カ国以上からの政府・企業関係者ら約2000の代表団が参加。

・開会の挨拶でガリバシヴィリ首相は、ジョージアは最も簡素な税制度と低い税率により投資のために理想的な場所であると述べた。

・日本からは菅原財務副大臣が出席。15日にはチャクラバルティEBRD総裁およびハドゥリ財務相が会談した。「ハ」財務相との会談ではJICAの資金によってジョージアで実施されているプロジェクトの進捗や今後の協力の見通しについて議論。

▼EBRDによるジョージアへの投融資(15日)

- ・EBRDとジョージア政府は、EBRDがジョージア国内初の風力発電所の建設プロジェクトに2500万ドルを融資することで基本合意に達した。発電所はゴリに建設され、総工費3500万ドル。発電能力20MWh。

・EBRDは総工費10億ドルのネンスクラ水力発電所建設計画に対し約2億ドルの融資を決定。2019年に完工予定。

・EBRDは「Aversi Pharma」社に対し既存の病院の改修と新たな病院の建設のために1,090万ドルの融資を決定。

「Aversi Pharma」は、医薬品の製造・販売や病院経営などを行なう「Aversi Group」に所属。

▼2015年4月の工業製品生産者物価指数(15日)

- ・国家統計局が発表。前月比 2.3%上昇、前年同月比 8.7 %上昇。

▼2015年4月の外国からの送金額(15日)

- ・国立銀行の資料によれば、2015 年 4 月の外国からの送金額は 91.1 百万ドルで前年同月比 24.4% 減。国別の内訳は多い順にロシア (37.0 百万ドル)、ギリシャ (13.3 百万ドル)、イタリア (8.2 百万ドル)、米国 (8.1 百万ドル)、

トルコ (5.7 百万ドル)、イスラエル、スペイン、ドイツ、ウクライナ。

▼EBRDがジョージアの予測経済成長率を引き下げ(16日)

- ・EBRD は 2015 年のジョージアの実質 GDP の予測成長率をこれまでの 4.2% から 2.3% に引き下げた。2016 年の成長を 2.6% と予測。